

地域医療で、今大事なこと

特定医療法人財団石心会 理事長 石井 暎禧

病院医療、中でも救急医療の崩壊が懸念されている中で、わが石心会グループは川崎・狭山の両病院を軸として、年々医療機能を充実させつつあります。我が国の医療体制の何を改革し、充実させるべきか、厚生労働省としても、とっくに分かっているのだが、諸々の制約からろくに実行できないでいる中で、石心会グループが前進を続けられるのは、医療政策の実施を待たずに、今日地域医療が必要としているものを先取りして先駆的に実践に移しているからに他なりません。

高齢社会において増大する医療需要に対しては、効率的な提供体制を作らなければならない事は論を待たない自明のことです。しかし、小泉政権下において、競争を激化させれば、効率的な体制ができると考えた市場経済主義者たちは、やみくもに医療費を抑制し、医療の荒廃と国民の不安を増加させました。この国民の不安を解消するには、もっとも疲弊している急性期入院医療と救急医療体制をまず再編整備する必要があります。その為には、地域中核病院の機能を上げ、それを中心とする連携体制を作ることが必要なのであります。

厚生労働省は過去に幾度となくこの様な見解を明らかにしましたが、地方財政の破綻の進行もあって、効果ある政策は実施されず、いまだ願望の水準にとどまっています。

今日、疾病構造が変化し、救急医療においても、(小児救急、産科救急、精神科救急などを除けば)交通外傷から、心臓病・脳卒中などへ中心軸が移っている中で、かつての民間の救急告示の外科病院を軸とする救急医療体制は完全に過去のものとなり、救急輪番制もほとんど意味を持たなくなっています。なぜなら、血管系疾患に対応できる高度な医療チームなしには、救急医療が成立しなくなっているからです。

その様な中で、今、もっとも必要な地域医療のあり方は、一病院完結型から地域完結型医療へ転換し、病院間、病診間の医療連携を深め、救急医療も形式的な一次二次三次というシステムでなく、疾患に応じた実戦的なネットワークを形成する事です。石心会グループの経営する病院は早くから医療連携に取り組んでいる開放型病院であり、救急医療の地域中核病院です。

〈次頁に続く〉

本紙タイトル『海燕』は、M・ゴーリキーの散文詩《海燕の歌》(1901)に由来しています。

その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海。戸惑い騒ぐばかりの鳴らの群を尻目に、
海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

(編集部によるダイジェスト)

そして今、このような石心会グループの地域包括医療の構想は、開業医・療養病院等を巻き込みながら、着々と現実化しつつあります。これが我々の元気の秘密なのです。

箱物と形だけのシステムを作りたいがる行政や、(遅れたものに合わせる)護送船団方式の医師会主導では、効果的な地域医療システムは建設できません。実力ある地域病院と熱心な開業医の先生たちが自発的に集まり連携するしか、国民の望む

今後の医療の展望は描けないのです。

全国的に見ても、民間病院で数少ない、医療崩壊の時代を生き延び、発展しつつある急性期病院は、いずれも以上の点で同じ特徴を有しています。石心会グループにあっても、①救急医療体制の一層の充実、②疾患別センターの質の向上、③在宅部門、療養施設等との緊密な連携、がこれまでに以上に望まれるところであり、この道が我々をもっと強くしてくれる道である事を確信して歩んで行きたいと思います。

★トピックス①

狭山病院 研修棟完成間近、10月本格運用開始

狭山病院では看護師等の研修専用スペースとして、研修用医療機器・備品が常備された研修施設の整備をすすめており、近くこれが完成、10月に運用を開始します。この施設の目的と今後の活用について、同院看護部教育委員会委員長である粕谷科長(さやま腎クリニック看護科長)に語ってもらいました。

“当院の看護部教育委員会では新人・中堅者・救急看護など12の院内研修コースを設定しています。新人研修や救急看護コースでは看護技術や救命措置等の演習が数多くあるのですが、これまでは研修場所の確保に苦労することもありました。今回、研修のための専用スペースを設けていただいたことにより、場所の確保という問題が解決されます。さらに、講義や基礎学習、グループワークを行う研修室と講義で学んだことを実際に身につけるためのスペースである演習室が設けられていることから、研修効率が大きくアップします。演習室にはベッドや車椅子、教育訓練用機材(BLSトレーニングマネキン・静脈穿刺訓練器など)を常置しており、これまで以上に、看護技術の実技確認や病室を設定した多重課題の演習などを取り

入れることができます。教育委員会としても今後さらに研修企画を充実させていきたいと考えています”。

2009年7月、保健師助産師看護師法が一部改正され、看護師等は免許を受けた後も臨床研修その他の研修を受け、その資質の向上を図るよう努めなければならない、とされました。今回の研修棟完成によって、看護師等の継続教育がもっと充実され、看護の質向上がさらに推進されるでしょう。



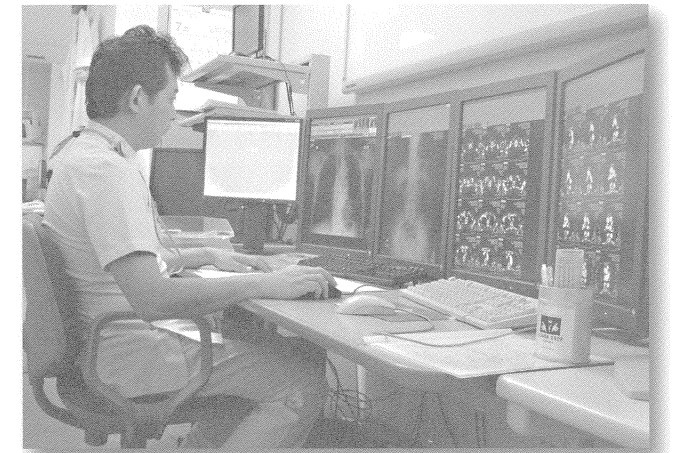
★トピックス②

PACS導入

■川崎幸病院、川崎幸病院中原分院、川崎幸クリニック、さいわい鹿島田クリニックが4施設一体となった医療画像システムを構築

パックス (PACS) とは、Picture Archiving and Communication System (医療画像保存システム) の略語で、CT、MRI、一般エックス線撮影装置などの各種画像装置から得た情報をデジタル化して、ネットワークを介してリアルタイムに参照・閲覧するシステムです。川崎幸病院では、昨年、同院と川崎幸病院中原分院、川崎幸クリニック、さいわい鹿島田クリニックとを結んだPACSの構築について検討をすすめ、本年(2009年)4月には4施設での同時運用を開始しました。今回のPACS導入は、4施設の医療画像データをいつでも必要な時に4施設間で閲覧可能にするとともに、画像診断管理加算2、外来等における電子画像管理加算の算定増にもつながり、さらに、デジタル保存による画像の非劣化、フィルム代やその保管料等費用の削減といったメリットもあります。このシステム導入プロジェクトで委員長として中心的な役割を担ってきた田之畑一則副院長

(放射線科部長)は、“念願のPACSが導入され、質の高い画像診断報告書をリアルタイムに提供することが可能となった。将来的にはアルファメディック・クリニックなど川崎地区の石心会グループ施設全てにPACSを導入し、これらを結んだ画像診断センターを構築したいと考えている。”と抱負を語っています。



〈4施設の画像データを必要な時に閲覧可〉

★トピックス③

医食同源！「透析食の美味んぼ」を探求

昭島腎クリニック 事務課長 齊藤まさ子

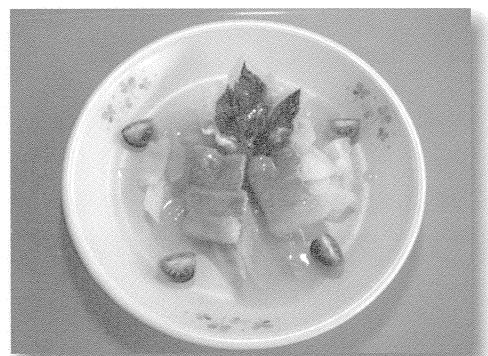
昭島腎クリニックでは「美味しい透析食」を患者さんに提供することを心がけ、日々努力をしております。最近、クリニックの敷地内に無農薬減化学肥料栽培によるプランター農園を送迎を担当する運転手さんの協力により造りました。無農薬減化学肥料栽培とは農薬は一切使用しないで、化学肥料をその地域で通常使われている量の、5割以下に減らして栽培する方法です。(昭島はほぼ9割以下に減らしています) このプランター農園は、ウイスキー熟成用の樽材を再利用して作った

バレルプランターという樽型のプランターを利用したもので、プランター内にはバジル、あした葉、パセリ、なす、トマト、ミント、おくらなどの苗が植えられています。土は有機肥料100%の野菜を育てる培養土(あかだま土、腐葉土、バーク堆肥)を使用し、追肥に有機100%肥料を若干使用し、さらに厨房から時々廃棄される卵の殻などを利用したりしています。この自家農園の風景は職員食堂から見えるところに位置しているため、職員も日々野菜の成長を目で楽しむことが出来て、

癒しの空間にもなっています。最近、この自家農園で栽培された無農薬野菜を使用して透析食の提供をポツポツ始めました。自家農園野菜はまだまだ、始めたばかりなので、採れる量も少なく、形も小さく、いびつだったりしますが、採れたて野菜の持つ新鮮さ、香り、味には格別なものがあり、人間の体に必要な栄養素が驚くほど含まれているのがわかり感動します。では、この無農薬自家農園で栽培された野菜を使用した最近の透析食メニューを一部ご紹介いたします。

透析患者さんは「エネルギー」「蛋白質」「食塩」「カリウム」「水分」「リン」「カルシウム」など7項目の制限があります。この制限がある透析食を透析患者さんに物足りなさを感じさせずに美味しいと思って食べていただけるよう、また、「食べる楽しみ」を感じていただけるように心を込めた丁寧な透析食作りを行っています。まずは美味しい透析食を患者さんに食べていただくこと、そして、透析患者さんを元気にすること、昭島腎クリニックの透析食の原点はここにあると考えます。

どんなに立派な透析食でも、患者さんに食べて



■豚肉のオレンジ煮あしたば添え



■さといものあしたばあんかけ、ヨーグルトマープルムース
*すずきのミルキウエーとトマトのバジルオイル（メニュー提供：昭島腎クリニック料理長／荒井昭治）

いただかなければ、治療食としての役割を果たすことはできません。さらに残食は産業廃棄物となり、経費を増やします。昭島腎クリニックでは常日頃から、調理責任者の荒井料理長をはじめとして管理栄養士、栄養士がメニューの研究、調理の工夫、食材の選択、改善について研究し、さらに、美味しい透析食を提供する努力を継続して行っております。「医食同源」という、4000年の歴史をもつ中国に伝わる古くからの言葉がありますが「薬食同源」ともいわれており、不老長寿の道を深く突きつめたところに生まれた言葉だそうです。その意味は病気を治すのも食事をするのも生命を養い健康を保つためその本質は同じだと言う事（広辞苑より）と辞書に記載がありました。医も食も源は同じ。薬は健康を保つうえで毎日の食べものと同じく大切であり、おいしく食べることは薬を飲むのと同様に心身をすこやかにしてくれるということをお伝えしているのだそうです。（明治製菓～医食同源より）昭島腎クリニックも「医食同源」の考えに基づき今後も「美味しい透析食」の追求を継続し、元気な透析患者さんが沢山増えることを心から願い努力して参ります。



■あしたばのプランター

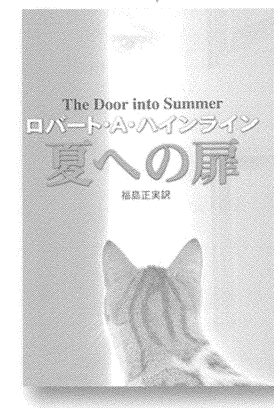


■プランター農園（バジル、ミント、トマト）

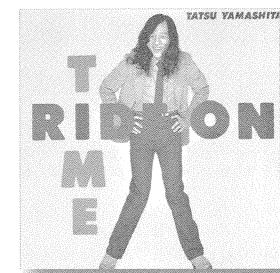
《読書のすすめ》

ロバート・A・ハインライン（著）「夏への扉」
福島 正実（翻訳）
756円（税込）〈ハヤカワ文庫〉

さやま腎クリニック 院長 小野田 教高



■夏への扉
（ハヤカワ文庫 SF（345））



■RIDE ON TIME（ライド・オン・タイム）
山下達郎 2,400 円（消費税込み）

舞台は1970年のアメリカ。純粋の技術屋気質のダンは、万能フランクと命名された、毎日の家事を完璧にこなす頭脳ロボットを発明した。会社を共同で経営していた親友マイルスと、ある時商品発売計画で対立、あけく美しい恋人ベルにまで騙されて作品を奪われそうになった。失意の中選んだのが“冷凍睡眠”による現実からの逃避。再び眼が覚めたのは西暦2000年。ここでベルと再会し、また自分の作品を目にしたが、どうしても1970年に戻らなければならないことに気付き、軍事機密であるタイムマシンを用いて、再び1970年にジャンプする。実は主人公ダンが真に相思相愛の仲になった女性は、マイルスの元妻の連れ子リッキー、当時11歳であった。もう一人？大切にしていたのが、ヒト語を理解する愛猫のピートであった。どんな結末が待っているのかと思いきや、感動のフィナーレを迎える。

他のSF作品で時間旅行をテーマにして、単なる未来都市や宇宙空間を題材にした類のSFと「夏への扉」が根本的に違うのは、登場人物の個性が光り、現実社会で普通に見られる欲望、嫉妬、友情、人間愛、また特に猫好きにはきつと身の毛がよだつほどの描写等々、意外に思えるほど泥臭いモチーフが根底に流れていることである。娯楽映画で類似の題材でヒットした映画で「バック・トゥー・ザ・フューチャー」はシリーズにもなって記憶に新しいが、「夏への扉」の面白さとは失礼ながらレベルが異なる。

この作品が世に出たのは1957年で、私も生まれる前である。その時点に想像で描いた2000年の世界ですら、今を基準にするともう過去のものとなっている。その描写から、

なるほど鋭い洞察だなと巨匠ハインラインを称える楽しみは別にしても、私自身この本を初めて読んだのが1980年なので、既に30年前という事実がある。つまり冷凍睡眠で移動した時間軸ぐらいいは、普通に生きて年をとってしまった。何度も読み返しているが、物語の設定年から前になったり後になったりして、自分自身が物語の中の登場人物になり、時間旅行しているかのような錯覚を覚えて愉快である。

最後に、この作品にはすばらしい音楽が付いている。といっても映画化されていないのだから、サウンドトラックではない。自らSF小説を書くほどの才能の持ち主で、キーボードプレイヤーの難波弘之の1979年のデビューアルバムに、かの山下達郎が「夏への扉」という同名の曲を提供した。これは山下達郎自身の1980年のアルバム「RIDE ON TIME」にも自らの歌で挿入されている。本を読んだあとにこの曲をセットで聴くと、歌詞の一字一句が身にしみて、これまた至福の時間が流れるのである。

《趣味探訪》

『風を感じて。自転車1人旅』

川崎幸病院中原分院 事務長 長田 正章

〈 遍 歴 〉

	自転車種類	主な目的地		目 的 地	距 離
小学生・中学生 (川崎)	セミドロップハンドル	こどもの国サイクリング 25km	通勤	中原分院、川崎幸病院、諸会議 ほか	数 km～10 数 km
高校生(広島)	セミドロップハンドル	通学 12km/日	半日	横浜・元町、銀座、新宿、浅草 など	0～70km
大学生(京都)	中古スポーツ車 実用車	もっばら京都散策 京都 大阪～徳島 多度津～福山 通学 15km～30km/日 新聞配達 5 km/日	一日	三浦半島一周、小田原、御殿場、上野原	150～200km
リハ学院生～ 社会人(県、京都)	中古ランドナー	奈良 45km 琵琶湖一周 200km/1 泊	好きなスポット (海)	剣崎、九里浜、三崎、鵜沼、茅ヶ崎海岸	90～150km
社会人 (東京・川崎)	ランドナー → ロードバイク	銀座散歩 40km、浅草散歩 50km、 山手線一周 60km、TDL60km、 三浦半島一周 155km、相模湖 120km、上野原 135km、富士霊園 209km	好きなスポット (山)	奥多摩、秦野、御殿場	100～200km
			息抜き	三崎“まぐろ料理・柳” 小田原“マカロニ市場” 大磯“井上蒲鉾店” 浅草“犬印鮎” 日本橋“三越” 新丸の内ビルディング 六本木ミッドタウン 横浜・元町“genten” 献血ルーム(有楽町、渋谷、池袋など) 池上“相模屋(くずもち)”	155km 140km 110km 60km 50km 45km 45km 40km 30～50km 20km

趣味探訪……さてこれが趣味なのか??

私にとって自転車は身近な道具、便利な機械、小旅行の足……。
気ままに、のんびり、急ぎたければ急げるし、急な方向転換も
何のその。辛抱の利かないこの性格にはもってこいの手軽な
乗り物です。

小さな頃から何時もそばにいた自転車。

魅力は何といっても軽快さ、風を切る爽快感にあります。嫌いな
向かい風でさえ、見えない空気を身体で受けとめ、逆らい進む
感覚は車では決して味わえないもので私は好きです。

湘南134号線横海側のサイクリングロードを走るとき、思わぬ
横風によろめくこともあります、潮風があまりに心地よく、
苦笑いで受け止めて忘我の境地に入れます。

社会人になり車を持てるようになりましたが、長距離を走っても達成感を感じる事が出来ず、
未だにドライブ後の疲れは好きになれません。

自転車は車にはない旅の楽しみを教えてくれ、きちんと整備さえしていればコストパーフォー
マンス抜群。皆さんもいかがですか?

私の乗り方は、その殆どが通勤、工作中的の移動ですが、たまに半日以上の時間が取れると
そわそわして自転車に乗ってしまい、一旦走りだしたら出来るだけ遠くへ遠くへと目標を
定めます。

歩いて行くにはちと遠い、車はかったるい、電車は雨の日だけ、バスは気分が悪くなる。
だから……自転車で。



信号の変わり目、奇妙な建物、広告、
街往く人、木々などを見ているうちに……
大抵走りだすと気が変わり当初の目的地
は忘れ方向転換、気になる界限への周遊に
変更。
電車賃、ガソリン代がかからない分だけ
気が大きくなり、途中で食べるランチが
豪華に格上げです。……三浦ならまぐろ、
小田原はパスタにワイン、築地では寿司
……とね。

私の自転車歴を披露すると、今でこそ
軽いロードバイクに乗っていますが、

始めてから27年間はランドナーという旅仕様のがっちりタイプが愛車でした。この自転車、
フレームが細身のクロモリ鋼で出来たもので頑丈さ、しなやかさが特徴。あちこちぶつけて
傷だらけでしたが、体に馴染んでいました。しかし奥多摩の坂道を登る途中でクランクが
折れて……金属疲労らしいのですが……
さよならしました。昨年夏の話。

その後は知人から頂いたロードバイク
に乗り換え。再び年末、小田原・早川の
登り坂で力を入れた際にチェーンが
外れ停止、何とフレームの先端がこれ
また金属疲労で折れ、お別れ。2008年
には2台の自転車を失ってしまいま
した。

その後自転車の無い悶々とした日々を
数週間過ごし、ママチャリでの通勤も
試しましたが爽快感が全く感じられず
ストレス蓄積状態へ。

思い切ったの新車購入はクリスマスイブ。ランドナー、ロードと迷った末、軽さと走りの
軽快さを取ってロードを。

年始から再び走り回っています。

自転車の面白さは修理が簡単なことです。まだ全てをいじれるわけではありませんが、タイヤ
交換、パンク修理は勿論、チェーン掃除やペダルの交換と部品入れ替えもでき、“自分の自転車”が
作れてしまうところが面白いのです。同じ車種でもカラフルなテープを巻いたり原色のタイヤを
付けるだけで気分転換できます。この私好み、変幻自在な点を最近
まで知りませんでした。ロードバイクの良さでしょうね。



健康指向、メタボ予防、脚力低下防止、色々言われますが、私の
乗りは一人散歩です。
ぜひ皆さんも自転車での散歩、試してみてください。



ミュージック・サロン



※ 今回は7月26日からミューザ川崎シンフォニーホールで開催されている「フェスタサマーミューザKAWASAKI 2009」をご案内いたします。

■オーケストラ夏の大祭典

「フェスタサマーミューザKAWASAKI 2009」開催♪

川崎幸病院もスポンサー(特別賛助会員)となっているミューザ川崎シンフォニーホールでは、同ホールを本拠地とする東京交響楽団など9オーケストラが一堂に会するクラシック音楽イベント「フェスタサマーミューザKAWASAKI 2009」を開催する(開催期間7月26日(日)～8月16日(日))。同音楽祭は今年で5年目を迎えるが、日本を代表するオーケストラの演奏を一時期に連続して聴くことが出来るこのイベントは、本格的なクラシック音楽ファンの間でも注目の的となっている。

さらにこのイベント、オーケストラの演奏のみならず、ふだんはなかなか見ることのできないオーケストラのリハーサル風景見学、指揮者によるプレトーク(楽曲や作曲者に関する解説)、“こどもフェスタ”と題したチビッコ達の音楽体験など、通常の演奏会では味わえないエキサイティングなプログラムが盛りだくさん、しかも料金は一公演3,000円前後と割安で、“こどもフェスタ”にはこども料金も設定(500～1,000円)されている。大ヒットとなった「のだめカンタビレー」でクラシック音楽の素晴らしさに目覚めた新生クラシック音楽ファンにも見逃せないイベントだ。

■主なプログラム

- ・7月26日(日) オープニングコンサート
16:00開演 東京交響楽団 指揮 ユベール・スダーン
モーツァルト 交響曲第41番ハ長調 ほか
- ・8月1日(土) 16:00開演 NHK交響楽団 指揮 現田茂夫
ベルリオーズ 序曲「ローマの謝肉祭」ほか
- ・8月2日(日) 15:00開演 東京都交響楽団 指揮 矢崎彦太郎
ビゼー 歌劇「カルメン」ハイライト
- ・8月4日(火) 15:00開演 新日本フィルハーモニー交響楽団 指揮 井上道義
ドビュッシー 交響詩「海」～三つの音楽的スケッチ～ ほか
- ・8月5日(水) 20:00開演 日本フィルハーモニー交響楽団 指揮 広上淳一
メンデルスゾーン 交響曲第4番「イタリア」 ほか
- ・8月9日(日) 11:00開演、14:00開演の2本
こどもフェスタ「オーケストラとめずらしい楽器たち」 東京交響楽団
- ・8月16日(日) フィナーレコンサート 東京交響楽団 指揮 秋山和慶
シューベルト 交響曲第7番短調「未完成」、ベートーヴェン 交響曲第5番ハ短調「運命」ほか

※プログラム詳細はミューザ川崎シンフォニーホールのWEBサイト <http://www.kawasaki-sym-hall.jp/> から「フェスタサマーミューザ」をクリック。



■チケットの申し込み、購入 ミューザ川崎シンフォニーホール044-520-0200(予約オペレーター(10:00～18:00))、チケットぴあ(音声認識0570-02-9999)、コンビニ各店で。 ※チケット売り切れの場合はご容赦ください。

★トピックス⑤

【川崎幸病院】

- 4月3日 川崎幸クリニック合同新入職員オリエンテーション in川崎商工会議所 参加者48名
- 4月28日 新入職員歓迎会(川崎幸病院/中原分院/川崎幸クリニック合同) in日航ホテル
- 5月21日 本部主催 川崎幸病院新築計画に伴う発注説明会 inソリッドスクエア
- 5月21日 看護師復職支援セミナー開催 参加者5名
- 5月22日 職員向け新型インフルエンザ感染対策説明会
- 5月29日 新病院移転準備プロジェクト・キックオフミーティング
- 6月12日 資格取得者お祝い会(対象者36名)
- 6月17日 山本晋大動脈センター長がテレビ東京『主治医が見つかる診療所 3時間SP』に出演
- 講演会
 - ・5月26日 療養病院との連携の会 参加:17病院32名 inミューザ川崎 研修室
第一部:『今後の医療と地域連携』(院長/石井暎禧) 第二部:療養病院との意見交換会
- 出張講演(公開講座)
 - ・6月27日 桜本二丁目町内会主催『脳卒中について』
(講師:脳神経外科副部長/遠藤純男) 桜本二丁目町内会館 参加者38名
- 救急隊勉強会(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)
 - ・4月16,17日 『スムーズな患者受け入れの為に』(講師:EMT科主任/大橋聖子) 参加者計23名
 - ・5月21,22日 『新しい創傷処置』(講師:救急部副部長/三村琢也) 参加者計30名
- 院内勉強会
 - ・4月4,8日 医療機器安全管理委員会主催『心電図モニターの取り扱いについて』(講師:日本光電担当者)
 - ・4月16日 個人情報保護委員会&医療安全管理対策委員会主催『個人情報保護セミナー』
 - ・4月30日 第9回さいわいプレスト・イブニングカンファランス
※ミニレクチャー『乳がんに対するチーム医療の重要性』(外科医長/高橋保正)他、症例検討2例
 - ・6月24日 薬剤科主催勉強会『血漿分画製剤について』(講師:ベネシス社)

【川崎幸病院中原分院】

- 7月4日 第8回うるおいコンサート 合奏(洗足音楽大学 堀越ゼミ)
- 公開講座
 - ・4月11日 『高齢者に多い肺炎の発生とその予防』(講師:川崎幸病院内科副部長/堀地直也) 参加者20名
 - ・5月30日 『楽に受けられる内視鏡検査のコツ』(講師:川崎幸病院内視鏡科長/渡部博一) 参加者29名
 - ・6月6日 『うつ病について』(講師:川崎幸クリニック臨床心理士/稲富正治) 参加者43名
 - ・6月20日 『排尿のトラブルで悩んでいませんか?』(講師:川崎幸病院泌尿器科部長/林 哲夫) 参加者23名
- 院内勉強会
 - ・4月23日 『デュロテップMTパッチに関して(薬剤特性、使い方、廃棄方法)』(講師:ヤンセンファーマ株式会社)
 - ・5月21,27日 『血漿分画製剤について』(第1,2回) (講師:田辺三菱製薬株式会社)
 - ・6月9日 『在宅酸素の使用方法・実技及び医療機器の立会いに関するQ&Aについて』(講師:相互産業株式会社)
 - ・6月16日 『AI(Autopsy imaginng)について』(講師:川崎幸病院医療安全管理課長/今村寿彦)
 - ・6月17,25日 『結核について』(第1,2回) (講師:明治製菓株式会社)

【狭山病院】

- 4月3,4日 狭山地区事業所新入職員オリエンテーション 参加者84名
- 5月1日 ハイケアユニット入院医療管理料届出(2階南病棟5床)
- 5月10,16日 ふれあい看護週間 ※ふれあい看護体験に9名が参加
- 5月25,26日 平成21年度チャレンジシート発表会
※狭山地区事業所の診療部を除く各部門の責任者が平成21年度の目標を発表
- 5月31日 看護師復職支援セミナー(所沢市民文化センターミューズ) 参加者6名
- 6月1日 ハイケアユニット入院医療管理料届出(3階北病棟4床)
- 6月15,29日 献血(埼玉県赤十字血液センター主催) 124名献血実施
- 6月20日 看護師復職支援セミナー(狭山病院) 参加者2名
- 院内勉強会
 - ・5月22日 『PEG増設とケアについて学ぶ』 参加者116名
 - ・6月12日 『医療安全の基礎』 参加者134名

● 地域医療連携・公開カンファレンス

- ・ 4月17日 『糖尿病をどう捉え、どう診療すべきか』
(講師: さやま総合クリニック内科副部長/三好洋二) 参加者63名
- ・ 5月14日 『西部地区急性期病院 病・病連携懇談会』 参加者21名
- ・ 5月28日 『骨粗鬆症診療における病身連携の意義』 参加者90名
(講師: 城西国際大学薬学部 臨床医学講座教授/和田誠基、狭山病院副院長/野本 栄)
- ・ 6月17日 『摂食・嚥下障害の考え方と援助の実際』 参加者297名
(講師: 茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科助教授/白坂誉子)
- ・ 6月29日 『乳癌の標準治療・乳癌診療ガイドラインの解説』(講師: 狭山病院外科/児玉ひとみ) 参加者110名

【川崎幸クリニック】

●糖尿病公開講座

- ・ 4月4日 参加13名
- ・ 6月3日 参加10名

●気功教室 講師: 臨床心理士/稲富正治

- ・ 4月15日 参加14名
- ・ 5月27日 参加10名
- ・ 6月24日 参加8名

●心理相談室公開講座 講師: 臨床心理士

- ・ 5月13日 クローバーの会(うつの人を支えるご家族対象) 参加者2名

【さやま総合クリニック】

●健康講座

- ・ 4月11日 『白内障の症状と治療』(講師: 眼科医長/鈴木俊一) 参加者15名

●外来糖尿病教室

- ・ 5月7日 『野菜をとりましょう』(講師: 管理栄養士 係長/蒲池祐子) 参加者20名

【さやま腎クリニック】

- 5月26日 防災訓練 ※消防署職員指導の下では初めての訓練。 参加者35名

【さいわい鹿島田クリニック】

- 5月 しびれ外来(夕診)開始

- 6月 透析部門の処方方を院外化

【昭島腎クリニック】

●患者会勉強会・催しもの

- ・ 6月28日 講演『透析医療と生活～元気で長生きするために～』(講師: 院長/栗本義直)
- ・ 6月28日 講演『最新の透析機器の構造と性能』(講師: 透析技術課主任/正木一郎)
- ・ 6月28日 『第2回セラピーコンサート』(講師: 老健わかば 音楽療法士/妹尾福子) in 昭島市商工市民センター

●職員勉強会

- ・ 4月23日 『心電図モニター(医療事故)』(講師: 日本光電) 参加者26名
- ・ 5月28日 『透析室における新型インフルエンザの対応』(講師: 院長/栗本義直) 参加者28名

【新緑脳神経外科】

●院内勉強会

- ・ 6月4日 講演①『外来リハビリテーションにおける患者満足度調査』(講師: リハビリテーション科 理学療法士/池上直宏)
講演②『CyberKnifeの精度』(講師: 放射線治療品質管理室室長 医学物理士/井上光広)
講演③『インシデント・アクシデント報告』(講師: 院長/佐藤健吾)

【狭山市入間川・入間川東地域包括支援センター】

●地域活動

- ・ 4月6日ほか計4回 入間川東地区民生委員との定例情報交換会(狭山市社会福祉会館) 参加者計85名
- ・ 5月12日ほか計2回 『認知症サポーター養成講座』(狭山市社会福祉会館ほか) 参加者計29名
- ・ 5月20日 出前講座『認知症について』(沢地区自治会館) 参加者13名
- ・ 5月29日 出前講座『地域包括支援センターについて』(御幸地区: 幸楽) 参加者15名
- ・ 6月18日 平成21年度第1回『日常生活圏域会議』(入間川包括会議室) 参加者31名

●勉強会

- ・ 4月21日 『都老研方式: 地域型認知症予防プログラム』(入間川包括会議室) 参加者15名
- 5月11日ほか 『脳力アップ教室』(地域型認知症予防プログラム) 計5回参加者合計102名